

テルモ
超音波画像診断装置「ビジキューブ」と超音波カテーテル
「アルタビュー」の本格販売を開始
～血管内超音波画像診断領域で国内トップシェアを狙う～
(2017.02.17)

●主な製品特長

1. 画像の高精細化

血管内超音波検査では、冠動脈内に挿入したカテーテルの内部にあるセンサーから超音波を発信し、その反射によって血管内の様子を観察する。ビジキューブとアルタビューでは、高い周波数(60MHz)が選択可能になり、従来品(40MHz)と比較して、より鮮明な画像を得られるようになった。

2. 画像取得・処理の高速化

血管内の画像を取得するためには、センサー部分が病変部を越えるまでカテーテルを進めた後、センサーをカテーテル内でゆっくりと引く操作がされる。ビジキューブでは、アルタビュー内のセンサーを最速毎秒9mmと従来品の約5～18倍で引くことができ、より迅速な検査につながる。また、取得したデータを再生する画像読出時間も従来の40秒から3～5秒になるなど、画像処理の高速化も図られた。

3. 装置の軽量化、操作性の向上

ビジキューブの重量は約34kgで、従来品と比較して約4分の1の軽量化がされた。また、医療従事者の動きを観察して設計されたシンプルな操作パネルなど、取扱いを容易にするための工夫が施されている。



VISICUBE循環器用超音波画像診断装置
「ビジキューブ」